



# バンコク便り



## 1.はじめに

タイ財務省によりますと、今年のタイ経済成長率を3.8%から4.2%へ上方修正すると発表しました。今後は国内インフラ投資が加速することや、プミポン前国王崩御に対する1年間の服喪期間も明けたため、消費ムードも明るくなると予測されております。3月からは1年間で一番暑い暑期に入るため、日に日に暑くなってきているバンコクより当地情報をお伝えいたします。

## 2 当地ビジネス情報

タイの最低賃金について

タイ政府は1月30日の閣議で、1日あたりの最低賃金を4月1日より引き上げることを承認しました。全国77県で軒並み引き上げとなり、上昇率は1.6%~7.1%（5パーツから22パーツ=約17円から77円）引き上げとなります。主な地域としてはバンコクで325パーツ（1,137円）、中部アユタヤや北部チェンマイでは320パーツ（1,120円）、東部経済回廊（EEC）地域の1つであるラヨーンでは330パーツ（1,155円）となり、首都バンコクを超える水準となる予定です。タイでは2013年1月に全国一律で300パーツ（1,050円）と定められて以降、昨年1月に4年ぶりに改定され、今回で2年連続での賃上げとなります。タイ政府は今後、中小企業に対し、最低賃金の損金算入額を拡大する税制優遇措置や機械化導入などによる生産性向上プログラムを実施し、生産コストの削減を目標にしております。下の表はタイ主要都市の低賃推移をまとめたものになります。2008年からの約10年間で最大で約2倍上昇していることが分かります。しかしタイには整ったインフラやASEAN地域の生産・輸出拠点、日本人が馴染みやすい国民性、生活環境の良さなどがあるため、引き続き世界的にも有望な進出国として注目されています。※1パーツ=3.5円にて算出

【タイ最低賃金推移】

一日あたり/パーツ

	2008年1月	2008年6月	2010年1月	2011年1月	2012年4月	2013年1月	2017年1月	2018年4月
バンコク	194	203	206	215	300	300	310	325
アユタヤ	165	173	181	190	265	300	308	320
ラヨーン	165	173	178	189	264	300	308	330

出典 PERSONNEL CONSULTANT MANPOWER (THAILAND) CO.,LTD

## 3.現地トピックス

バンコク市内のイベント会場にて東南アジア最大規模の観光見本市、「タイ国際旅行フェア（TIIF）」が2月7日から11日まで開催されました。TIIFは毎年7月と2月に開催され、約50万人が来場しますが、特に2月はソクラン（4月中旬にあるタイの正月で最大の大型連休）に訪日する人が大勢いるため、日本の自治体などが地域の魅力を積極的に売り込む姿が目立ちました。

一部の自治体ではPRのみでなく、当地旅行会社と連携し、直接販売ブースに出展するなど、取り組み方も様々でした。タイは今年に入って格安航空のエアアジアがバンコクー札幌直行便の再就航を発表したほか、タイ国際航空が成田及び中部セントレアの増便を発表しました。

また東北地域では「日本らしさ」を求める旅行者も増加しているとのことで、会場の様子もタイ周辺国向けのブースより日本向けブースに大勢の人が集まる等、日本への関心が大きく高まっていることが感じられました。



日本の春をイメージした装飾



東北の武将紹介（特設ステージ）

【本件に関する連絡先】

海外業務部 石井、榎、齋藤 023-626-9050

バンコク駐在（カシコン銀行ジャパンチームトレーニー） 齋藤 +66-(0)6-3206-2823